

金属行人

連日猛烈

な暑さが続
く。取材で

工業団地を
歩くことも
多いが、そ
のたびに滝

のような汗をかく。この季節の外回りは厳しいが、さまざまな熱源を有することも多い製造現場で働く人たちは、本当に頭が下がる▼先日取材したアルミ鋳物メーカーでは、敷地内の複数工場に分散する溶解炉を新たに建設する建屋に集約するという。これにより熱中症対策強化による職場環境改善などにつながる。大掛かりな施策だが「来夏までに実施したい」という▼関東のある銅合金鋳造・鍛造メーカーでは、製造現場に腕時計型電子端末を配布。身体深部の温度上昇を検知し熱中症になる前にブザーで周囲に知らせている。これにより「作業を交代し休憩をとってもらふなどの手をしっかり打てる」という

▼多く

の企業で熱中症対策が進む。従業員の健康を守ることは最優先事項。加えて、労働人口減の中で職場環境改善は人材定着にも不可欠だ。これは将来事業を続けるためにも重要な取り組みだろう。ただししっかりとした対策にはコストも必要となる▼金属関連企業は素材などの供給を通じ幅広い産業を支える存在。昨今、人件費や物流費など諸コスト上昇が収益を圧迫しているとの声を多く耳にする。その中で安定供給を続けるためにも、猛暑に汗する従業員を守りつつ事業継続するための費用が、製品の付加価値として認められる流れが強まってくれればと思う。